

14年10月泉州アベスト国賠訴訟で、初めて国の責任が明確に認められて今年で4年になります。石綿による健康被害は、仕事中に接触した労働者だけでなく、労働者が持ち帰つた作業着等に付いた石綿を吸い込んだ家族なども病気になることがあります。

は中皮腫や肺がん等があり、非常に長い期間が経つてから発症すること、どのような状況で石綿を吸い込んだのか明らかにすることが難しい特徴があります。

寝屋川市にも多くの一人親方、職人さんが住んでいます。肺がんや中皮腫を患う、市民の方もおられます。

太田議員は、市として、アスベストの健康被害の相談窓口の設置と市としてのアスベスト健診事業を初めていただきたいと思います。

また市の広報などを通じてアスベス
ト被害救済について
広く周知することを
求めて市の見解を聞
きました。

寝屋川市は、市民
からアスベストに關
する健康相談があつ
た場合には、本市健
康部で対応しており、
相談内容に応じて、
適切に所管窓口を紹
介している。アスベ
スト健康被害救済制
度の周知は市のホー
ムページに項目を設
け、府の紹介ページ
にリンクしています
と答弁しました。

6月の地震 9月
の台風と大阪には大きな災害はやつて来ないという、なんの根拠もない安心感が木つ端微塵になります。した。
6月の地震では、我が家も多くのヒビが入り、一部損壊でり災証明をもらいました。
9月の台風では家中で家族3人集まつて台風が過ぎるのを怖がりながら待ちました。
我が家家の停電は3分弱で回復しましたが、寝屋川市内では翌日まで停電のところも出ています。
行政と関西電力は連絡体制がありませ

ん今回の停電で初めて知りました。寝屋川市も必死に市民と同じように問い合わせ窓口に電話をしていたようです。台風が過ぎてすぐに町内の状況確認、電話を頂いたところの現場確認に行きました。

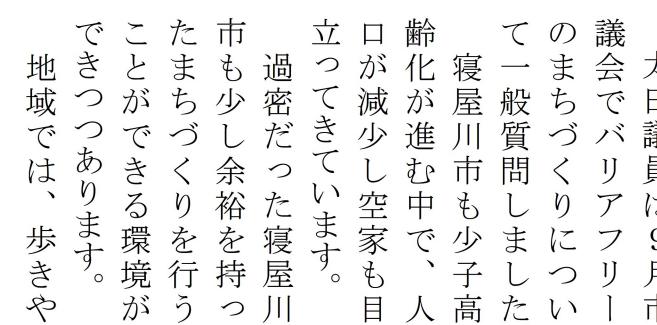
アズベストの相談窓口の開設を 太田議員が一般質問で求める

太田議員が一般質問で求める



A professional headshot of Dr. Liang Tang, a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a dark suit and tie.

太田 とおる



A circular portrait of Representative Takeo Ota, a man with glasses and short dark hair, wearing a suit and tie.

通行できるよう道
路の段差や斜面の解
消と共に、自転車と
歩行者の通行を分け
て欲しいなど、いろ
いろな要望が出され
ています。

まちづくりは大変
お金と時間の掛かる
問題ですが、しつか
りと目標と理念を掲
げて行けば、少しず
つでもより良い街へ
と改善されていきま
す。

道の分離やベンチの設営など寝屋川駅前線や、対馬江大利線などで現実のものとして姿を現してきます。

太田議員は、街のバリアフリーとは、道路だけでなく、まちづくり全体の街づくりの理念に関わる問題だと指摘しました。今後、第6次総合計画の策定も行われていく中で、ワークショップや審議会等多くの市民の意見が反映されたより高い理想を持ったまち

づくり計画となるよう市努力を求めました。寝屋川市は、道路のバリアフリーについては、都市計画道路の整備や道路改修工事、地域からの要望を踏まえて段差や傾斜の解消を行つており、今後も道路を快適に利用していくだけるよう努めていく。

街のバリアフリーについては、第6次総合計画における、市民の意見を踏まえとともに、国の動



づくり計画となるよううに市の努力を求めました。

寝屋川市は、道路のバリアフリーについては、都市計画道路の整備や道路改修工事、地域からの要望を踏まえて段差や傾斜の解消を行つており、今後も道路を

向や、他自治体における情報を収集するなど調査研究していくと答弁しました。

太田議員は、市民の意見が十分に反映されたまちづくりとなるよう再度要望をしバリアフリーのまちづくりについての質問を終えました。

う高齢者まで安心して過ごせる
バリアフリーの街づくりの推進を